

令和 7 年度

地域とともにある学校づくり

保谷第一小学校 1 年生

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

単元名： きせつとなかよし はる
(活動名)

ねらい：

- ・屋敷林の自然物にはたらきかけ、初夏の様子について気付いている。
- ・生き物や樹木、草花を観察し、それらとの関わり方を工夫している。

旧高橋家屋敷林は、2012 年に緑の保全を目的とした「下保谷四丁目特別緑地保全地区」に指定され、2017 年にその全てが西東京市の所有となりました。保谷第一小学校は、屋敷林へ 20 分程度で行くことができる場所です。

1 年生は春と秋に 1 回ずつ、屋敷林保存会の人々や豊かな自然と触れ合う活動をする予定です。1 回目は 5 月 12 日に行ってきました。



屋敷林の季節の植物や生息する生き物のこと、屋敷林保存会の方々の仕事のことなど、保存会の方々の手作り紙芝居で学習しました。



草地では、バッタ、テントウムシ、ヤマトシジミなど、たくさんの虫を見つけました。草むらにしゃがみこみ、じっと見つめて観察する子もいれば、見つけた虫を友達に見せながら嬉しそうに話す子もいました。



野草園では、保存会の方々が「この季節にはこんな生き物が見られます！」という写真付きパネルも用意してくださっていました。草地では、「屋敷林周辺で見られる生き物たち」を見せていただき、「さっきいたのは、ヤマトシジミかも！」と照らし合わせる子どもたちの姿もありました。

まとめ コラム

ムサシアブミの大きな葉には、子どもたちもびっくり！大きな葉が地面を覆うように広がっていて、「こんなに大きい葉っぱ見たことない！」と目を丸くしていました。初めて見る草花がたくさんあったようです。子供たちは、屋敷林保存会の方々とやり取りを通して、知的好奇心や気付きの質を高めることができました。自然だけでなく地域の方とのつながりも感じられる活動となりました。11 月には、季節の植物や生き物の様子を knowing に加えて、諸感覚を使って自ら関わって遊ぶことができるように計画していきます。